

『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』 正誤表

このたびは『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

第1刷（2022年12月15日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2024年5月20日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	14頁右段 「3 基底核の構造と機能」 の項、上から2行目	被殻と淡蒼球はもともと発生的に結合しており 線条体と呼ばれる。	被殻と尾状核はもともと発生的に結合しており 線条体と呼ばれる。	2024/5/20
1	236頁左段 「2 代表的なアプローチ」 > 「a CI療法」の項、上から 5行目	その代表格であるCI療法は麻痺手を拘束し、段 階的な難易度で調整された課題（シェーピング 課題）を集中的に行い、上肢の機能回復に導く 治療法として開発された。	その代表格であるCI療法は非麻痺手を拘束し、 段階的な難易度で調整された課題（シェーピン グ課題）を集中的に行い、上肢の機能回復に導 く治療法として開発された。	2024/5/20